

第44回全国都市緑化佐賀フェア（仮称）

基本構想

令和7年7月

佐賀県

I 全国都市緑化佐賀フェア（仮称）の開催趣旨

佐賀県は、有明海と玄海灘という2つの海に面し、山や川、クリークが身近にあります。長い歴史において、佐賀の人々は、山に植林し、川の治水と利水に力を尽くし、海に堤防を築くことで、自然と共生した実りある豊かな暮らしをつくりあげてきました。県では、「森川海はひとつ」という思いで、この豊かな森・川・海を人が未来につなぐ「^{もりかわかいと}森川海人っプロジェクト」に取り組んでいます。

佐賀の山を源流として潤う佐賀のまちでは、人々の手により、緑を増やし育て、花で地域を彩りもてなす活動や、豊かな緑を活かした佐賀の「本物」の良さを体感する取組が、各地域で進められています。

佐賀の花と緑の価値を未来につなぐ、こうした動きを推し進め、ひとりひとりが自然との共生について考え、行動するきっかけとするために、国内最大級の花と緑の祭典「全国都市緑化フェア」を開催します。

「さがデザイン^{*}」による磨き上げも行いながら、山を大切にする人々の輪を広げる「山の博覧会（仮称）」と一緒に、全国の方々に佐賀の花と緑、山の素晴らしさを発信し、ひとりひとりの花づくり、緑づくりなどの自発の取組によって佐賀の豊かな自然環境を未来につなげていきます。

※ さがデザイン：佐賀ゆかりのクリエイターと連携したデザイン視点での施策の磨き上げ

2 全国都市緑化佐賀フェア（仮称）の基本的な考え方

理念

全ての人々に恩恵をもたらす森・川・海を未来へ
～ 佐賀の花と緑の価値を未来につなぐ ～



目的・レガシー

自然との共生について考え、行動するきっかけとし、
「自発の地域づくり」につなげる

事業の柱

地域

自発の地域づくり

- ✓ 県民と地域が主役の自発的な地域づくり
- ✓ 地域の自発的な緑化活動の推進
- ✓ 自発の地域づくりの核となる人材育成

人

志を持った人づくり

- ✓ 志を持って挑戦する人材の育成
- ✓ 骨太で健やかなこどもたちを育む取組
- ✓ 未来の花と緑の担い手づくり

交流

協働による交流

- ✓ CSO、学校、企業等による協働の場の創出
- ✓ 多様な人々が参加できる交流の場の創出
- ✓ 花と緑をきっかけとした新たな出会い、人と人のつながり

価値

本物の価値

- ✓ 花と緑、山の素晴らしさの体感
- ✓ 自然、歴史や文化など佐賀の本物に触れる唯一無二の体験
- ✓ 地域資源の更なる磨き上げ・新たな価値の創出³

佐賀の過去・現在・未来を 緑でつなぐ

(佐賀の誇れる歴史)

佐賀は、弥生時代のクニのはじまりを伝える極めて歴史的価値の高い吉野ヶ里遺跡を有し、歴史を大切にす文化が根付いています。

また、長い歴史において、先人たちの知恵と工夫により治水と利水に取り組み、水の恵みにあふれる県土をつくりあげてきました。

そして、幕末・維新时期に「技」「人」「志」により日本を牽引した誇れる歴史と、それを引き継いだ挑戦するマインドが息づいています。

(緑でつなぐ)

花と緑を植えること、育てること、見ること、学ぶこと、食べること等、緑を通じた様々な関わり方を通じて、佐賀の過去に光を当て、佐賀の現在の価値を感じられる場を創り出し、佐賀の未来の姿を描き出すことで、佐賀らしい緑化フェアをつくりあげていきます。

緑化フェアの様々な価値を 日常に還元する

「自発の地域づくり」につなげ、
県民が実感できるレガシーに

緑化フェアは、幅広い分野で様々な価値を生み出す
可能性を持っています。

県民の日常生活に関わる幅広いテーマを通じて、ひとり
ひとりの県民の参画につながるよう、県民や民間事業者、
関係団体等との連携体制を構築していきます。

県民ひとりひとりによる「自発の地域づくり」につなげ、
緑化フェアが生み出す様々な価値を県民が日常生活で実感
できるものとしていきます。

1 県民参加	2 防 災	3 まちづくり
4 スロー ツーリズム	5 テクノロジー	6 健 康
7 生物多様性	8 伝統文化	9 地域産業

■名称・愛称・テーマ

緑化フェアの開催趣旨・基本的な考え方をもとに、
分かりやすく親しみやすい名称・愛称・テーマを、
基本計画以降に設定します

■主催者等

主催者

実施主体

提 唱

佐賀県、公益財団法人都市緑化機構

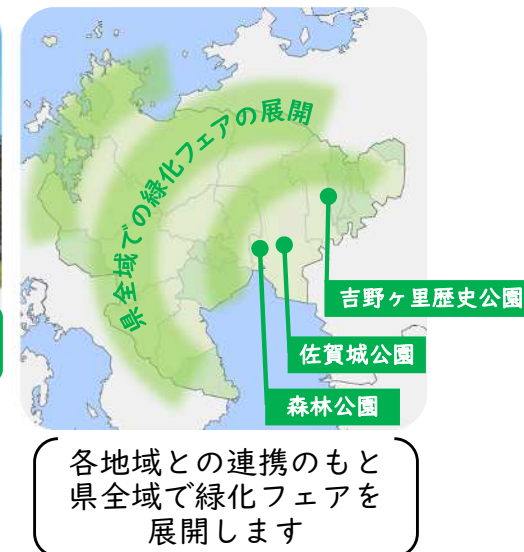
緑化フェアの実施組織として実行委員会を設置

国土交通省

■時期

令和10（2028）年春、2か月程度

■会場 吉野ヶ里歴史公園、森林公園及び佐賀城公園を主たる会場とし、各地域との連携のもと県全域で展開します



■シンボルマーク 基本計画以降に設定します

■イメージキャラクター 森川海人（もりかわかいと）くん



5 スケジュール

	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)
基本構想	懇談会 ●→	大臣同意			緑化フェア開催
基本計画		検討組織 ●→			
実施計画		実行委員会 ●→			
会場整備			基本・実施設計／会場整備		

6 事業推進体制

■基本構想懇談会

基本構想の策定にあたり有識者等の意見を聴取するため、全国都市緑化佐賀フェア（仮称）基本構想懇談会を設置しました。

■基本計画の検討組織

基本構想のもと、基本的な事業計画を策定するための検討組織を設置します。

■実行委員会

基本計画の策定後、円滑な事業実施を図るため、主催者、関係団体等により構成される実行委員会を設置します。

■実行委員会事務局

実行委員会のもと、各事業を実施するための組織として実行委員会事務局を設置します。

7 事業計画

(1) 展示計画

「森・川・海はひとつ」を表現するとともに、あらゆる機会において、多様な人々が関わることを目指します。

多様な人々の関わりを見えるかたちにし、人の想いが伝わる展示とします。

佐賀の「本物の価値」を伝え、広げていく佐賀らしい展示とし、質の高い花と緑の魅力を伝えます。

【事業のイメージ】

- ・ 佐賀平野、水辺、石垣など佐賀らしい景色を活かしたフラワーランドスケープ
- ・ 県民とともに育てるプロセスを楽しむナチュラルスティックガーデン



九州佐賀国際空港付近の
ポピー園



宿根草を中心とした
ナチュラルスティック
ガーデン

(2) 出展計画

花と緑に関する技術・技能を発表する場、技術・技能の継承を育む場とします。

参加したくなるような仕掛け、仕組みをつくり、広く参加を呼びかけます。

様々な地域からの出展参加を、ストーリー性ある演出などで表現します。

【事業のイメージ】

- ・ 志を持って挑戦する人材育成につながる出展庭園
- ・ こどもたち、若い世代が楽しみ、高め合う機会となる出展花壇



佐賀県内の高校生が
デザインした出展花壇
(ぎふフェア)

(3) 行催事計画

「森・川・海はひとつ」を緑化フェア会場等で実感できる行催事や、会場のロケーション、特徴的な景観の中でそこでしか体感できない行催事により、佐賀らしい緑化フェアとなるよう盛り上げていきます。

【事業のイメージ】

- ・「森」「川」「海」、そして「空」を体感できるアクティビティ
- ・佐賀の本物の歴史の舞台を活かした会場で、歴史を体感・体験するプログラム
- ・農産物を育てる・収穫する・食べるといった佐賀の「農」と自然との共生を体感できるプログラム



©佐賀県観光連盟

森・川・海・空を体感する
アクティビティ

(4) 協働推進計画

緑化フェアを通じて「自発の地域づくり」の輪がさらに広がる姿を目指し、準備段階から緑化フェアに参画できる仕組みを整えます。

参画により緑化の楽しさや達成感を感じ、県民全体で緑化フェアを盛り上げ、緑化フェア後のレガシーにつながるような仕組みをつくります。

【事業のイメージ】

- ・CSO、学校、企業等、県民協働による花壇づくり
- ・緑化フェア後もまちに花と緑の風景が続く自発の取組の仕組みづくり



県民協働による花壇づくり

(5) 飲食物販計画

佐賀ならではの「食」を積極的に取り入れた出店の仕組みを整えるほか、花と緑にちなんだ物販サービスを展開します。

【事業のイメージ】

- ・ 佐賀の風景と、花と緑に囲まれた空間で
佐賀らしい「食」を楽しむ場の創出
- ・ 佐賀が誇る陶磁器などの伝統産業や特色ある
農林水産物と連携した産品開発



©佐賀県観光連盟



©佐賀県観光連盟



©佐賀県観光連盟

佐賀ならではの食を楽しめる飲食空間づくり

(6) 会場運営計画

複数の会場で、誰もが安全で快適に緑化フェアを楽しめる管理運営体制を整えます。

【事業のイメージ】

- ・ みんなが自然に支えあい、心地よく過ごせる「さがすたいる」による
人にやさしい施設やサポート体制
- ・ ボランティアと一緒にあってつくりあげる緑化フェアの仕組みづくり



案内所での貸出サービス

(7) 広報宣伝計画

広報宣伝開始から開催期間までの各段階で、効果の高い情報発信、来場につながる取組を実施します。

【事業のイメージ】

- ・ 佐賀が持つ本物の価値、地域資源を活かしたコンテンツ創出や
プロモーションの実施



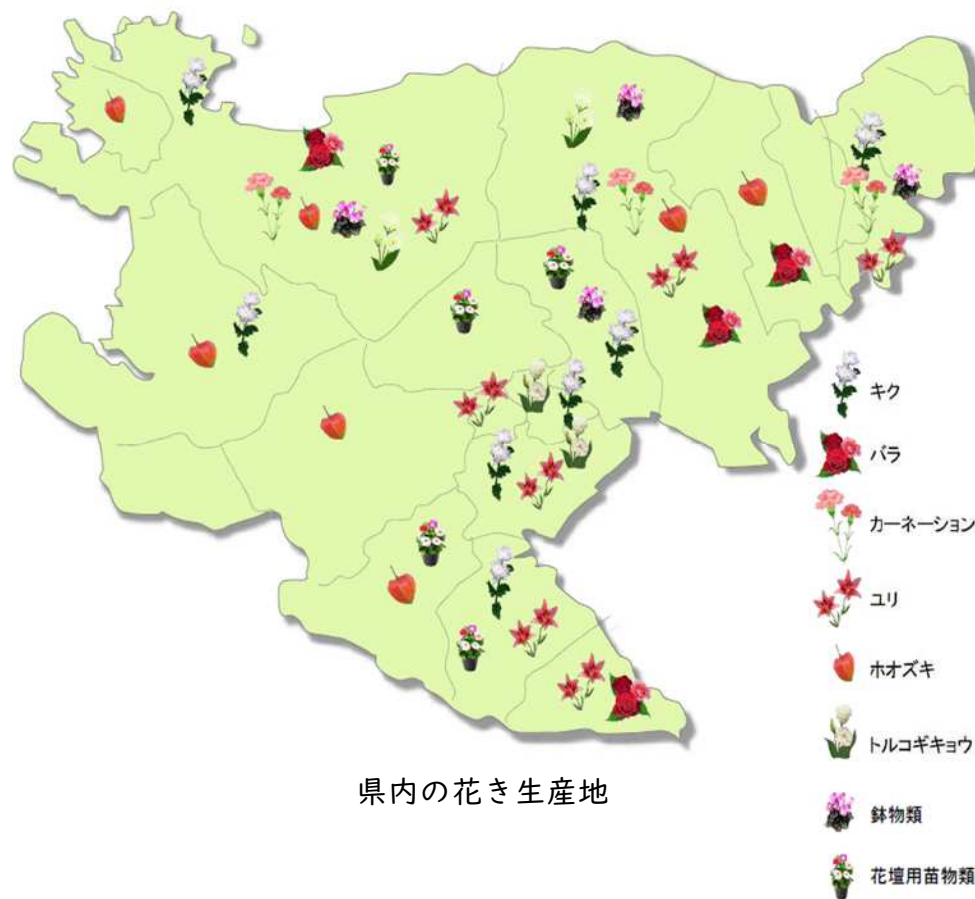
(8) 植物調達計画

緑化フェアで使用する植物は、短期間に多様で大量の調達が必要となるため、展示、会場整備等の各計画と連携した植物調達を実施します。

県内の植物生産・流通状況を踏まえ、県内生産団体等と協力して植物調達体制を構築します。

【事業のイメージ】

- ・生産者との協働・連携による調達体制づくり



県内の花き生産地

(9) 交通輸送計画

各会場へのアクセス条件を十分に踏まえ、公共交通機関を最大限活用します。

必要に応じた補完的な輸送方法を検討し、分かりやすく誰もが快適な交通輸送を実施します。

【事業のイメージ】

- ・「歩こう。佐賀県。」（歩くライフスタイル推進プロジェクト）と連携した徒歩や公共交通機関を活用したアクセスルートの設定と情報発信

歩こう。
佐賀県。

歩くライフスタイル推進
プロジェクトとの連携

附 属 資 料

全国で相次ぐ豪雨災害

佐賀県でも

- 平成29年7月九州北部豪雨
流木が漂着、大きな被害に
- 令和元年8月豪雨、令和3年8月豪雨
大規模な浸水被害
- 令和5年7月豪雨
土砂崩れによる人的被害も発生

森

▽ 広がる森づくり協定

企業や団体による森林保全活動

人が未来へつなぎます！

森川海人っプロジェクト

森・川・海の豊かな自然環境を守り、未来へ継承

「チーム森川海人っ」に**150**企業・団体登録！



川

KAWARUプロジェクト



▲ 交流会



カヌー・川床体験▲

海

世界海洋プラスチック
プランニングセンター(仮称)整備

波戸岬
ビーチクリーンアップ

虹の松原清掃活動

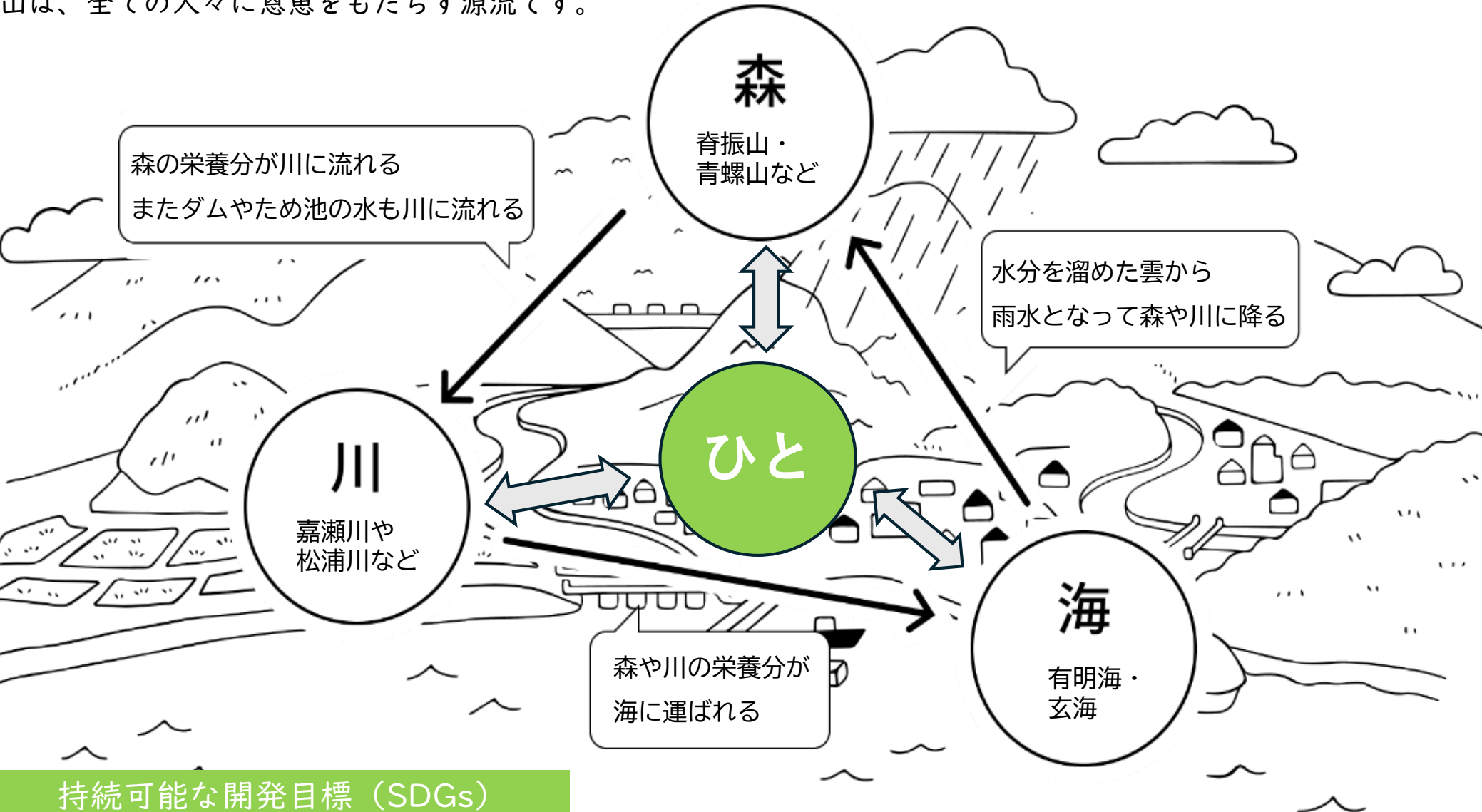
森川海人っキャンプ

佐賀の岬から

世界の海を取り戻そう

森・川・海のつながり

私たちは、日々、森・川・海の恩恵を受けながら生きています。
山は、全ての人々に恩恵をもたらす源流です。



持続可能な開発目標（SDGs）

15 陸の豊かさも守ろう

14 海の豊かさも守ろう

13 気候変動に具体的な対策を

17 パートナリーシップで目標を達成しよう

気候変動への対応、生物多様性の確保といった課題を踏まえ、佐賀から世界に向けて、自然との共生を提言

山の博覧会（仮称） × 全国都市緑化フェア 開催イメージ



自発の地域づくりで佐賀の山、花と緑の価値を未来につなぐ



全国都市緑化フェア

県全域で展開



佐賀県立都市公園のあゆみ

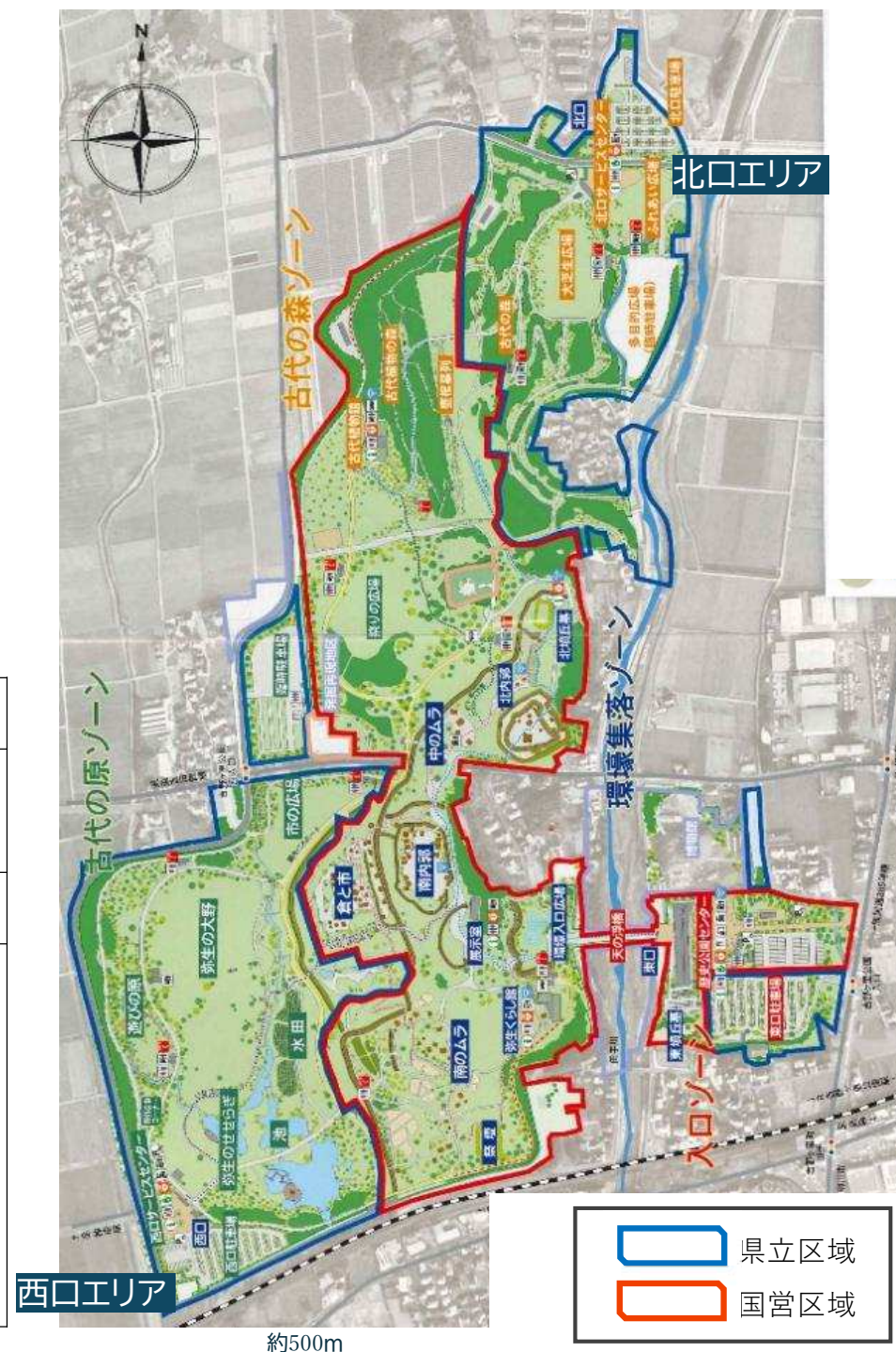
- 昭和36年、城内公園を開設（現佐賀城公園）しました。県都を代表する歴史文化・観光拠点として、区域を拡大しながら整備を進めています。
- 昭和43年、明治百周年記念事業の一環として森林公園の整備に着手、昭和48年に一部開園しました。徐々に区域を広げ平成14年には全面開園を行いました。
- 平成4年に国営吉野ヶ里歴史公園として整備されることが閣議決定され、佐賀県では平成5年に遺跡を中心とした公園区域を都市計画決定し、平成13年に開園しました。
- 佐賀城公園と森林公園は平成22年度から、吉野ヶ里歴史公園は平成23年度から指定管理制度を導入し、民間の能力を活用しつつ、サービスの向上を図っています。
- 吉野ヶ里歴史公園では、一部区域において、官民連携事業（Park-PFI）を導入した交流拠点施設やキャンプフィールド等の整備を行っています。



佐賀県立吉野ヶ里歴史公園

- 「弥生人の声が聞こえる」を基本テーマに、国の特別史跡「吉野ヶ里遺跡」の保存と、弥生時代を体感できる場を創出し、国内外へ情報発信の拠点とすることを目的に、国と県が一体で整備した公園です。
- 吉野ヶ里遺跡の持つ歴史的価値を高め、広げ、後世につないでいくため、官民連携によりキャンプ等が楽しめる体験型の施設整備を進めています。

所在地	神埼市・吉野ヶ里町
面積	開園面積107ha (国営53ha、 <u>県立54ha</u>)
開設	平成13年
主な施設	【主な施設】 県立区域：西口・北口サービスセンター、広場、遊具、休憩所、野外炊事コーナー、水田、池等 〔国営区域：歴史公園センター、竪穴式住居等弥生集落の復元施設、展示館等〕



■緑化フェアでの展開（イメージ）

- ・吉野ヶ里遺跡の「古代」の雰囲気を感じ触れられる取組を展開します。
- ・本物の歴史空間と広大な空間を活かした、吉野ヶ里歴史公園でしか味わえない屋外イベント等と連携します。
- ・公園内の多様な植物を学んだり、周辺地域の農の恵みを楽しむ企画を展開します。
- ・新たに整備されるキャンプ施設等を拠点に、歴史を感じながら、質の高いアウトドアライフを楽しむ機会を創出します。



弥生の大野からの風景



オオガハス



ベニバナ

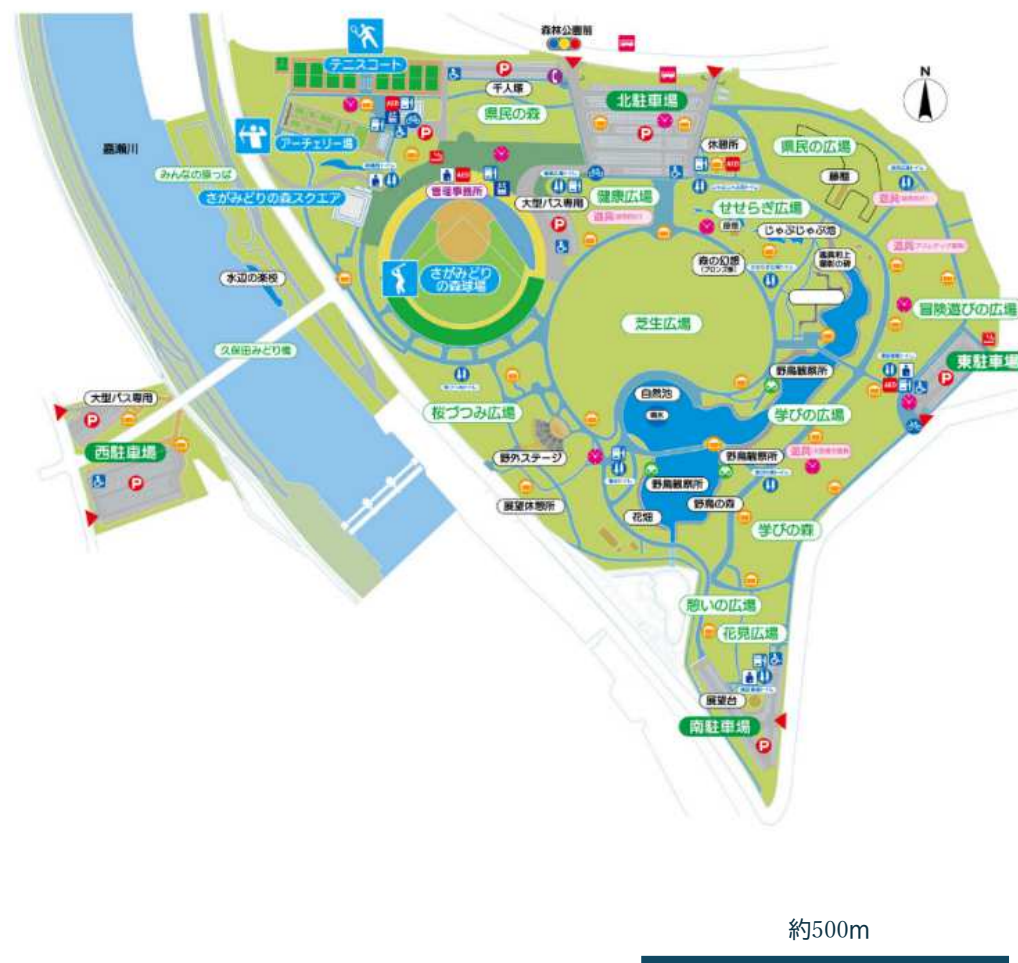


古代米の栽培

佐賀県立 森林公園

- 嘉瀬川の旧河川敷に整備された公園で、脊振山地、多良山地、佐賀平野を見渡せます。
- 広大な芝生広場中心に、大型遊具、水辺、スポーツ施設等が充実しています。
- 桜や菖蒲などの植物の鑑賞、野鳥の観察等ができます。子どもから大人まで様々な世代が楽しめる公園です。

所在地	佐賀市嘉瀬町、久保田町
面積	開園面積40ha
開設	昭和48年
主な施設	【主な施設】 さがみどりの森球場、さがみどりの森スクエア（屋内運動施設）、テニスコート、アーチェリー場、広場、遊具、桜つつみ広場、じゃぶじゃぶ池、自然池、野鳥観察所、展望台、遊具、野外ステージ等



■緑化フェアでの展開（イメージ）

- ・「森・川・海のつながり」を体で感じられるロケーションを最大限に活かした取組を展開します。
- ・広大な芝生広場と水景を活かし、花や緑で魅了する風景を県民参加でつくりあげます。
- ・遊び、学び、スポーツを通して、佐賀の自然の素晴らしさ、暮らしと自然との共生を再発見する企画を展開します。



森林公園全景と
脊振山地・嘉瀬川



せせらぎ広場・
じゃぶじゃぶ池



自然池

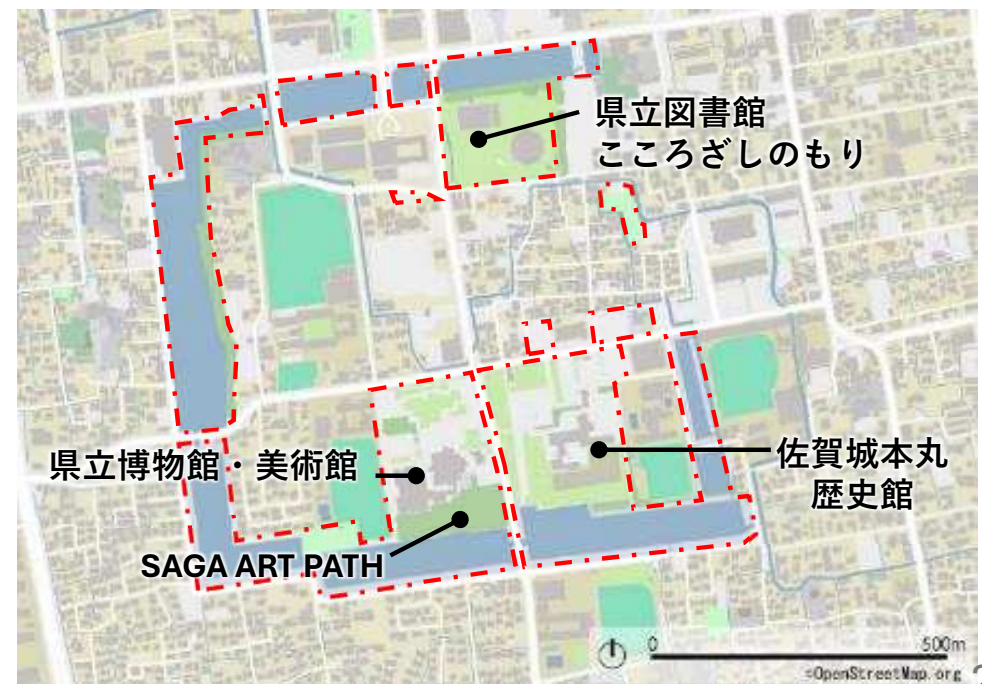


さがみどりの森スクエア

佐賀県立佐賀城公園

- 佐賀城址を中心とした公園で、佐賀駅から約2kmの佐賀市中心部に位置しています。
- 濠に囲まれ、楠の大木や石垣など佐賀を代表する景観となっています。
- 佐賀城本丸歴史館、博物館、美術館、図書館等、県の主要な文化施設が点在しています。
- こども園、学校、住宅等が隣接し、まちの暮らしに近い公園です。
- 近年、博物館周辺、こころざしのもり、SAGA ART PATH、園路などを再整備しており、活用が広がっています。

所在地	佐賀市城内
面積	開園面積30ha
開設	昭和36年（県立公園として開設）
主な施設	【主な施設】 佐賀城鯨の門及び続櫓、佐賀城本丸歴史館、佐賀県立図書館、こころざしのもり、旧さがレトロ館、（旧警察部庁舎）、県立博物館・美術館、古賀忠雄 彫刻の森（SAGA ART PATH）、濠等



■緑化フェアでの展開（イメージ）

- ・幕末維新期の歴史を伝えるとともに、まちの暮らしに近いことを踏まえ、「未来」のまちの姿が見えるような取組を展開します。
- ・佐賀城の質の高い歴史的景観と花や緑の演出により、佐賀ならではの景観を創出します。
- ・まちに近い立地を活かし、各文化施設等と連携した企画を展開します。
- ・花と緑で彩られ、多様な人の想いが広がり、つながる、佐賀駅からの歩いて楽しい空間をつくれます。



こころざしのもりと図書館



佐賀城鯨の門



佐賀県立博物館前



佐賀駅前・さが維新テラス

花と緑を育む地域づくり

県では、緑豊かな潤いある自発の地域づくりを推進するため、地域やボランティア団体が、自発的に、継続して緑化活動に取り組む「花と緑を育む地域づくり推進事業」を行っています。

令和6年に開催したSAGA2024（国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会）では、県内各地で花と緑で来訪者をもてなす活動につながりました。

また、吉野ヶ里歴史公園では、年間を通して花壇づくりや野菜作りなどを行い、継続的なボランティアの育成を行っているほか、花壇づくりのデザインや管理等を行う緑化活動のリーダー育成を行っています。

緑化フェアの開催を契機に、緑化フェア後も自発的な花と緑の活動が継続、発展するよう取り組んでいます。



SAGA2024 に向けた地域での花壇づくり



吉野ヶ里歴史公園での花壇づくり



■委員名簿

座長

西川 真水 西日本短期大学 緑地環境学科 教授

委員

鵜池 邦敏 一般社団法人佐賀県造園建設業協会 会長

牛島 英人 一般社団法人佐賀県観光連盟 副会長

小出 則康 佐賀花市場 生産組合長

堤 雄亮 佐賀商工会議所 青年部 会長

寺野 幸子 NPO法人^{ポコ ア ボッコ}poco a bocco 理事長

真子 真波 佐賀県小中学校校長会 副会長

山口 敬子 株式会社佐賀新聞社 営業局 地域ビジネス部長

山口夕妃子 佐賀大学 芸術地域デザイン学部 教授

山下 裕子 ひと・ネットワーククリエイター／
全国まちなか広場研究会 理事

アドバイザー

涌井 史郎 東京都市大学 環境学部 特別教授

オブザーバー

江口 慎治 国土交通省 九州地方整備局 建政部 公園調整官

平尾 健 佐賀県副知事

■開催実績

第1回 令和7年2月12日（水）

- ・全国都市緑化フェアの概要について
- ・佐賀フェア（仮称）について

第2回 令和7年6月 6日（金）

- ・基本構想（案）について

第3回 令和7年7月 4日（金）

- ・基本構想（案）について